



日本の旅のご報告 (2003年8月4日~10月4日)

去る10月5日ケニアに帰国して早や1ヶ月余り。留守中に溜まった仕事、新たに次から次へと起きる問題に追われつつ、ふと気が付くともう11月。まだ旅の整理もできずにいますが、取り敢えずこの紙面で今回の日本での動きを簡単にご報告させていただきます。

昨年帰国時には各地で講演会等やらせていただいたのですが、今年は例外を除きそういう形のキャンペーンはしませんでした。各地で支援の中心になってくださっている方々とお会いし、この1年間のご報告をし、加えて今後の展開についてもご相談したいということで伺いました。

まずご報告としては、この1年間の変化、進展が主なテーマです。「モヨ通信創刊準備号」でご報告したウガンダ・ルカヤの職業訓練校の新校舎建築過程と落成式の様子、そこで学ぶ生徒たちの今、また「1号」でご紹介した学費支援プロジェクトの対象を変えた事情、新しく支援を始めたセカンダリーの子どもの紹介、キャンジャウ小学校と婦人グループの現状等を中心に

ご報告させていただきました。

また今後の展開に付いても色々ご相談しました。具体的に列記すると、(1)学費支援 (2)センター建設 (3)会員制導入 (4)ルカヤ職業訓練校の給食プログラム (5)日本事務局の強化、に関してです。その結果を順を追ってご報告します。

(1)に関しては新しく支援を始めて下さった個人の方、会社の方々へはお礼を述べるとともに、支援していただく子どもたちの資料をお渡しし、今まで小学生を支援して下さっていた方々には改めて事情をご説明し、セカンダリーの子どもの支援に移っていただけるようお願いしました。お会いできた多くの方々には快くご了解下さり、どのようにグループを組むかは、「モヨ」に一任されました。

(2)に関してですが、念願のセンター建設に向けての資金調達にしばって、来年8、9月に日本でキャンペーンを行いたい、その時は松下と

説得力のある生の話

徳島市 / 開業医・歯科 戸田恭司

松下さんのスライドに写った建物は粗末だが人々は生き生きとしている、日本とはまるで反対だ。ビクトリア湖のほとりのレンガ建ての素敵な建物、それがなんとスタッフ指導の下、生徒達が4ヶ月余りかけ自分たちで建てたルカヤ職業訓練校。これらが完成するまでの、スタッフ、子供達への指導、監督の材料支払い等々責任のとり方までアドバイスをする松下さん。キャンジャウ小学校へのトイレ建設費用の寄付が適切に使われなかった事を保護者会で指摘し、問題解決を計る松下さん。現地の人をちょっとつき離し、鳥瞰し

た所や彼らと自らを客体化している所が「おぼれていない」、実に説得力がある。「自立できるように」が1つの目標である事がよくわかる。現地直送、生の話は人を動かす。宗教も持たず、この様な事ができるエネルギーは華奢な彼女のどこから出てくるのか。行動は言葉を越える。松下さんの熱い心とクールな頭に引きつけられる私達。神は細部に宿り給うと言うが、松下さんの小さな具体的1歩1歩が少し光々しく見えるのは物にまみれた日本から見るからなのか？一度はケニアに行き現地と人に接しなくてはと思われた。

800 円の貸し付けから出発

10月21日の午前10時半よりキャンデウテウ・スラムにおいて、ウイメンズグループの会合がありました。

このグループの女性達は、モヨが無利子で貸し付けする小額貸付（マイクロクレジット）を元手に自立のための小さな事業を始めました。事業の売上から毎月定額を返済し、完済した時点で次の貸付が行われ、又その貸付を元に事業の拡大を図っていくという仕組みです。毎月1回、月々の返済・現状報告・問題解決の話し合いが行われます。彼女たち自身と子どもたちを支援する目的で組織されました。

2年前の設立当初のメンバーは10人、第一回貸付額は500シル（約800円）でした。その後少しずつ金額を増やし、現在の貸付額は2,000シル。その間、結婚して引越してしまった人、貸付金を支払え終えないまま姿を消した人などがいて予定通りの返済が滞ったため、話し合いを重ねた末、きちんと完済した5人のメンバーで、2002年に再スタートしました。リーダーはマーシーさんで、小さなキオスクを営業しています。ポリーンさんはパラフィンオイル販売、エリザベスさんとナンシーさんは、野菜売りです。ルーシーさんは、キオスクを営業していました。

この日集まったのは、リーダーのマーシーさん、ポリーンさん、エリザベスさん、ムワンギさんの4人でした。ナンシーさんは欠席でした。又、非常に悲しいことにルーシーさんは、エイズを元に発した肝臓病が悪化して9月に亡くなってしまいました。

ムワンギさんというのは27歳の青年で、これから若者グループを組織して彼らの自立を支援していくテストケースとしてこのウイメンズグループに参加してもらっています。彼はキオスクを開店し、今はその他にマンダジと卵の販売を始めました。

今回の会合の内容は、3ヶ月にわたり返済が遅延



ミーティング中のメンバーと松下さん

↓この日の訪問者 安藤さん・早川さん・松下さん



している理由、今後返済が遅延しないようにするにはどうした良いか、個人ではなくグループとしてのビジネスを立ち上げてみたらどうだろうか、という3点でした。

返済が遅延した理由は、マーシーさんは、タウンカウンスルの都合でキオスクの移動を余儀なくされたため、お店の再レンタルに費用がかかってしまった。エリザベスさんは野菜の仕入額が高騰し、いつも通りの利益が確保できなかった。また、ムワンギさんは、卵の販売先から回収したのが小切手だったため、現金化してから返済するとのことでした。

突発的な事情があるとしても、少しずつでも返済をしなければこのシステムを維持できないし、貸付金を生活費に使ってしまったとしてもシステムは活用されません。このことを各々で自覚するよう確認しあいました。そして、今後ポリーンさんが毎日10シルずつメンバーから預かり、少しずつでもキープしておくということが決まりました。

又、マーシーさんの指導のもとにニットビジネスをグループで行うのはどうだろうかという提案があり、注文を確保するための広告の仕方など具体的な計画を検討していくことにしました。さらに日本の支援者の方より織り機の寄贈及び作業指導が受けられるかもしれないので、サイドビジネスとしての活用も検討しようということになりました。別のウイメンズグループがグループとして、ホテルを順調に経営しているという実績があるため、個人単位からグループ単位へと方向転換をしてみようという試みです。次の会合は、12月2日、彼女たちがきちんと返済額を確保できるのか、ニットビジネス計画をどのように練ってくるのか、楽しみです。（取材・高橋優香）

- * キオスク：牛乳・砂糖・たばこなどを販売している小さな雑貨店
- * ホテル：揚げパンと紅茶などが出される軽食堂
- * ニットビジネス：毛糸でクッションカバーやセーターなどを編んで販売する事業

いろいろお世話になりました。

今回の日本帰国中には各地での暖かいお心遣い、ご配慮本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。またその時お預りしたことも達への学費支援金、頂いたご厚志の領収書等を未だお送り出来ずにおり申し訳ありません。今暫くお待ち下さい。また今回日本での「モヨ通信1号」発送に使わせて頂いた記念切手は当モヨの役員・大垣一氏のお父様が遺されたものをご寄贈頂いたものです。ありがとうございました。

松下

ケニア・ア・ラ・カルト③ 朝食

ケニアの人たちの平均的な朝食はチャイです。ミルクを水で薄めて沸かした中に紅茶の葉を入れてひと煮立ちさせ、たっぷりの砂糖を入れ、マグカップになみなみと注いで飲みます。地域によって、特にキシイ地方の人たちは雑穀を粉にしてお湯で溶かしたものを飲むそうです。これはウジ(アクセントは「ウ」にあります。)といい、いろいろな種類があります。主食は概ね取らないらしいのですが、食べる場合は、サツマイモをふかしたもの、マトケというバナナをふかしたもの、豆ととうもろこしを煮込んだキゼリなどが多いそうです。ナイロビではスライスして売っているパンにマーガリンを塗って、サンドウィッチにしたものを食べるのをよく見かけるのですが、これは、都市部に住む人たちだけの習慣だそうです。

浅村さん日本帰国のご報告

モヨ・チルドレン・センターでボランティアとして働いてくれていた浅村重臣さんが10月12日、日本に帰国されました。昨年4月～8月の間はナイロビの語学学校でスワヒリ語を学びながら、その後はティカに引越して活動していただきました。色々と協力ありがとうございました。

皆さまの声をお寄せください

遠く離れたケニアと日本の情報の共有を目指してモヨ通信は発行されます。今後このモヨ通信が皆さまとの情報交換の場となれば、と考えています。ぜひ、ご意見、ご希望、ご質問、または日本での皆さまの活動など、なんでもお寄せください。

編集後記

◎日本での旅を終え2ヶ月ぶりのティカの我が家。小雨季を迎えて野菜たちもすくすく育ってくれています。(テル)
◎ジャカラダの花の盛りを迎えました。ケニアの真っ青な空に、紫色の花が映えて、とても綺麗です。(優香)
◎浅村さん帰国に伴いモヨ通信の編集スタッフも代わりました。優香さんはこれまでも強力なサポーターでしたが、いよいよ本格的スタッフデビューです。どうぞよろしく。(英)

長岡「国際フェスタ」に参加(投稿)

テルさんとともにウガンダに同行した二人がいる新潟県の地方都市、長岡。その中心部にある国際交流センター「地球広場」で「世界の音・味・香〜今、私たちに何ができるのか〜」というテーマで「国際フェスタ2」が11月1日から2週間開かれました。フィリピン・パプアニューギニア・スリランカ・タイ・ガーナなど世界各地とかかわりを持つ7団体が参加しました。昨年、長岡で開かれたテルさんの講演を聴いた人から要請があり、私たちも早速「モヨ・チルドレン・センター(MCC)長岡グループ」として参加しました。

「アフリカの自立が日本の自立につながる」と題して、私が撮影したウガンダのストリートチルドレンの写真やルカヤ職業訓練校の開校記念写真、テルさんの写真、MCC概要や通信を展示するとともに、資料を持ち帰ってもらえるようにしました。また、タイコやひょうたんの楽器も展示。多くの市民が訪れました。少しずつ広がってくれることを願っています。

小林茂

会員制度の導入について

『モヨの活動を支える会』発足について、皆様から貴重なご意見を頂きありがとうございました。只今、来春早々に会員募集を行えるよう、準備をすすめております。詳細が決まりましたら、このモヨ通信にてお知らせ致しますので、再度皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

広告のご協力をお願い

モヨ・チルドレン・センターでは、モヨ通信の印刷代・郵送代をまかなうために広告主を募集します。何卒、よろしくご理解の上、ご協力をお願いいたします。モヨ通信に広告を掲載して下さる方は、モヨ・チルドレン・センター本部または日本支部までご連絡ください。

モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月ケニア政府大統領府 NGO ビューローインターナショナル NGO 登録の申請書類提出。
1999年9月 ケニア政府より、国際 NGO として「モヨ・ホーム」、正式に認可・登録される。
2000年10月ティカにて、本格的に活動開始。
2001年5月「モヨ・ホーム」から、「モヨ・チルドレン・センター」に改名。

モヨ・チルドレン・センター

P.O.BOX 2712 THIKA KENYA
TEL/FAX : 254(ケニアの国際番号)-067-22329
E-MAIL : moyo@africaonline.co.ke
ケニア政府 NGO 局登録番号 : OP.218/051/97223/1006
日本連絡先 : モヨ・チルドレン・センター日本支部
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1905
青木康子 : TEL/FAX:044-433-3447
寄付受付先 : 口座名称 : モヨ・チルドレン・センター
口座番号 : 00230-4-71118(郵便振替)